

— 農林事務所管内の動き —

1 福岡農林事務所管内

■ 農業

- ・ J A筑紫アスパラガス部会では、単収向上と面積拡大を図るため、「産地パワーアップ事業」を活用し、コンピュータスケール及び自動結束機を導入。生産者が行っていた出荷調制作業を部会で一元化し、栽培管理時間を十分に確保することが可能に。
- ・ 国内でのCSF（豚熱）の発生に加え、ASF（アフリカ豚熱）がアジア地域で拡大。このため、県では管内養豚農家の衛生対策の強化に向け、野生動物侵入防護柵の整備を支援。
- ・ J A福岡市元岡礫耕とまと部会、J A糸島礫耕トマト部会は、経営の効率化や販売先の信頼確保を目指し、令和2年2月に福岡県GAP認証を取得。
- ・ 糸島地域の農業者と県や大学をはじめとする関係機関で構成する糸島農業産学官連携推進協議会（アグリコラボいとしま）は、設立10周年。関係者の一層の連携強化を図るため、会員制の導入をはじめ、組織を改編。
- ・ むなかた地域では、産地の維持・活性化に向け、関係機関で連携し、就農相談、農家研修、新規就農者の定着までを継続して支援する、新規就農支援システムを新たに構築。令和元年8月に1名が就農、現在3名が就農を目指し研修中（イチゴ2名、花き1名）。
- ・ 南里園芸（粕屋郡志免町）が福岡県花き品評会「産物の部」〔品目名 洋ラン（ファレノプシス）、品種名 ジョインエンジェル〕で、最優秀の農林水産大臣賞を受賞。

地域のトピック

○ 新開玉子氏（福岡市）が秋の叙勲において旭日単光章を受章

- ・ 新開玉子氏は、女性農業者のリーダーとして、男女共同参画や女性農業者の地位向上へ尽力。この長年の功績が高く評価され、「旭日単光章」を受章。
- ・ 昭和40年の結婚を機に福岡市で就農、水稻やブドウ等の専業農家に。
- ・ 農協婦人部の若妻グループ「みのり会」や、農村女性グループ「みな月会」の結成といった取組で、農村女性のネットワークづくりに貢献。
- ・ 平成3年度に、福岡県女性農村アドバイザー第1期生に認定、10年から福岡県指導農業士として活動し「農業塾」を開設。新規就農者や青年農業者の育成に尽力。
- ・ 11年度に有限会社「ぶどう畑」（農産物直売所）を設立、代表取締役就任。
- ・ 女性農業者の代表者として、日本農業の未来を見据え生産現場の生の声を積極的に発言し、男女共同参画社会づくり功労者として内閣総理大臣賞も受賞。



「旭日単光章」を受章された新開氏

■ 林業

- ・平成31年4月に、新たな「森林経営管理制度」の運用がスタート。県では、情報の共有や市町での効果的な運用の推進を図るため、市町の担当者が参加する勉強会を定期的で開催（年4回）。
- ・林業経営の集約化・効率化の推進のため「意欲と能力のある林業経営者」を対象に、森林経営計画や森林経営管理制度に関する研修会を開催。併せて、現場管理を中心にICT化に向けた取組を支援するため、GISやGNSS機器[※]の使い方について現地指導を実施。
- ・シカ被害の低減に向け、県広域森林組合が造林事業を活用してワナ捕獲を実施。3年目となる令和元年度は、篠栗町、久山町に加え、古賀市でも取組を開始し、3市町合わせた捕獲目標250頭を大きく上回る304頭を捕獲。また、捕獲後はジビエとしての活用を図るため、地元のベンチャー企業へ試験提供を開始（元年度実績40頭）。2年度は、この取組を犬鳴山系へと広げるため、管外の宮若市においても開始予定。
- ・篠栗町萩尾地区の森林整備の基盤となる新規路線林道「小葉山線」（延長3.5km）の開設工事に着手、令和5年度の開通を目指す。

※GNSS機器：GNSS（汎地球測位航法衛星システム）とは、人工衛星を用いた測位システムの総称。位置情報をリアルタイムに算定し移動局の測位を行う機器。

地域のトピック

○ 久山町立けやきの森幼稚園の完成見学会を開催

- ・平成30年度の第5回福岡県木造・木質化建築賞の木質化の部で大賞を受賞した、「久山町立けやきの森幼稚園」が、平成30年4月に開園。
- ・県の主催で完成見学会を元年11月に開催。建築関係者・大手企業を中心に、72名が参加。
- ・見学会では、材料のほとんどを町内産材でまかなった木造園舎を建築するまでの手順を説明するとともに、林業者や設計者による検討組織を紹介。
- ・質疑応答では、SDGsや、民間による木造・木質化といった話題提供もあり、今後のさらなる木材利用の機運向上を期待。



園舎完成までの取組経過を説明



個別の説明箇所では設計などの詳細を紹介

2 朝倉農林事務所管内

■ 農業

- ・令和元年7月、8月の大雨及び台風17号により被災した農家の営農再開につなげるため、関係機関と一体となり、被災農業者向け経営体育成支援事業をはじめとする各事業を活用し、久留米市ほか3市2町で農業機械・施設983件の再取得や、災害回避施設177件の整備、総額11億円の復旧事業を実施。
- ・朝倉地域では、九州北部豪雨での被災者の営農再開と産地の復興を加速するため、県が、複合経営園地2か所の整備を支援。園地では、自動草刈機をはじめ先進的省力機械や新たな技術のもの根圏制御栽培の導入、輸入花粉の代替としてキウイフルーツ授粉用花粉の安定生産に取り組む。
- ・令和元年8月に施行された棚田地域振興法に基づき、うきは市が旧姫治・山春村を、東峰村が全域区を、指定棚田地域に設定。今後、中山間地域等直接支払交付金の棚田地域振興活動加算を活用し、棚田の保全を行い、より一層の地域振興を図る。
- ・県とJA筑前あさくら梨部会は、経営改善を図るため、全体説明会や意向調査を実施し、県育成品種「玉水」を導入。今後、現地適応性を把握し、早期栽培技術の確立を図る。
- ・永田牧場（久留米市）は、省力的かつ高度に乳牛管理を行う、次世代モデル牛舎を整備。2台の搾乳ロボットにより大幅に労働時間を削減するとともに、ICTを活用した飼養環境制御で暑熱ストレスを抑制し、個体乳量の増加を実現。
- ・JAにじトマト部会は、ICTを活用する研究会を立ち上げ、優良生産者の管理技術をマニュアル化。今後、マニュアルの実践による全体の収量向上に期待。

地域のトピック

○ 被災からの産地復興に向け、JA筑前あさくらが営農再開支援施設を立ち上げ

- ・平成29年7月九州北部豪雨で住家の被災をはじめとする深刻な被害を受けた農家は、生活再建を優先せざるを得ず、営農再開のための資金や農地の確保が困難。
- ・このため、農林事務所・普及指導センター・JAで検討を重ね、JAが被災農家の営農再開を支援する「久喜宮ドリームファーム」を設立。
- ・当施設は、JAが農地中間管理機構を通じて借り受けた農地にハウスを整備し、アスパラガスを生産し、3年目には農地を含め経営を被災農家に移譲する仕組み。
- ・今後、当施設の運営方法を検証しつつ、他の被災地区に展開する方針。



アスパラガスに取り組む被災農家



アスパラガス生産を開始したハウス

■ 林業

- ・平成 29 年 7 月九州北部豪雨で被災した林地の復旧事業は、県が朝倉市（旧甘木市）、東峰村を、国が特に被害が集中した朝倉市（旧杷木町、旧朝倉町）を実施。家屋をはじめとする保全対象があり、緊急度の高い全 60 か所の復旧に着手し、41 か所が完了。残り 19 か所についても早期完了を目指す。また、林道では、東峰村の全被災箇所への復旧が完了。被害の大きかった朝倉市では 6 割近く完了。
- ・東峰村内に計画している森林管理道「五駄・土師山線（全長 4,895m）」の新規開設に着手。令和 7 年度の完成を目指す。
- ・筑前町に建設される「ふくおか木質バイオマス発電所」の燃料として、これまで林内に放置されていたスギ、ヒノキの未利用材の集荷を令和元年 10 月からスタート。未利用材が活用されることで、地域林業のさらなる振興を期待。
- ・うきは市林業研究グループは、皆伐後の再造林で、2 規格のスギコンテナ苗（植鉢 150cc、300cc）による造林試験を実施。今後、試験結果をもとにコンテナ苗の改善点を福岡県樹苗農業協同組合と共有し、一層の低コスト化を目指す。

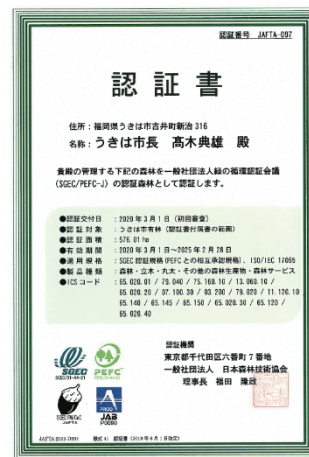
地域のトピック

○ うきは市有林が県内公有林で初の森林認証を取得

- ・令和 2 年 3 月、うきは市の所有する市有林が、県内の公有林として初めて国際森林認証機関による「森林認証」を取得。（所有森林面積：576.01ha）
- ・森林認証は、所有する森林資源を明確に把握し、生物多様性をはじめとする「環境面」や就労者の健康安全といった「社会面」、森林からの収益性の「経済面」の 3 つの側面による基準を満たし、持続可能な経営が行われる森林に与えられるもの。
- ・認証を受けた森林で生産された木材は、「認証木材」として、製材・加工・流通の各段階で他の製品と差別化されることから、うきはブランドの木材利用の拡大が期待。



森林認証を受けたうきは市有林



認証書

3 八幡農林事務所管内

■ 農業

- ・北九州市は、管内全域の農業研修生を受け入れる教育機関として、北九州地域農業次世代人材育成協議会を発足。県は、令和元年12月に同協議会を農業経営者育成教育機関として認定。
- ・遠賀・中間地域では、農家の所得向上を目指し、飼料用米として作付していた「ミズホチカラ」を元年産から全て米粉用米に転換。作付面積も30年産の44haから元年産では56haに拡大。
- ・JA北九と北九州市の酒造会社が連携し、地元産の山田錦を100%使用した日本酒を製造。令和2年3月から市内のJA農産物直売所で販売開始。
- ・県では、ブロッコリーの収量向上に向け、排水不良を改善するため、北九州市若松区に排水対策実証ほを設置。表面排水や弾丸暗渠での地下排水の実証成果をもとに検証し、併せて生産者へ排水対策の重要性を指導。
- ・湛水被害軽減のため、遠賀町の排水機場2か所（虫生津地区（受益面積42ha）、高家地区（受益面積45ha））で、老朽化した排水機場を改修。令和元年度に、両地区の排水機場工事が完了。

地域のトピック

○ 障がいのある方の農作業受け入れに向け、新たに労働環境を整備

- ・岡垣町のイチゴ生産者、廣渡正秀氏が、障がい者雇用環境整備事業を活用し、休憩所及び衛生施設（トイレ、手洗い場）を整備。
- ・障がいのある方が、使用しやすい施設となるよう、福祉施設の設計経験者からのアドバイスを受け、バリアフリー化や出入口の配置、動線を考慮して設計。
- ・特にトイレは、臭気がなく清潔感があるよう圧送式の簡易水洗トイレを導入。
- ・令和2年度から、障がいのある方の受け入れを開始予定。



休憩所（奥）とトイレ・手洗い場（中央）



トイレ・手洗い場

■ 林業

- ・緑の少年団活動の一層の充実を図るため、「福岡県緑の少年団交流集会」を、令和元年7月29、30日に北九州市で開催。県下12団体、100名（管内は中間市の中間東小学校）が参加し、各団体の活動発表や自然観察会を通じて交流を深めた。
- ・北九州地区森林・林業推進協議会において、地元の北九州市森林組合の木材生産事業に関する知識や技術を高めるため、森林作業の集約化、低コスト化に関する研修会を開催。
- ・ブランドたけのこ「合馬たけのこ」の隔年豊凶差の解消を目的に、肥培管理の効果調査を平成30年度から実施。適切な時期に適量の施肥を行った結果、裏年にあたる令和元年は、前回の裏年と比べ生産量の低下を抑制。これを基に、生産者に適切な肥培管理を指導。
- ・平成30年7月の豪雨により、林道貫山線など北九州市内の7路線27か所が被災。令和2年3月までに全箇所での復旧工事が完了し、供用が再開。また、林地でも山腹崩壊を中心に被害が発生し、県は管内14か所で復旧を計画。令和元年度中に7か所の工事に着工し、4か所の工事が完了。残り7か所は令和2年度早期に発注予定。

地域のトピック

○ CLT(直交集成板)を活用した木造建築物構造見学会を開催

- ・令和元年9月に、北九州市立大学ひびきのキャンパスで高さ7mのCLT壁パネルを利用した研究施設の構造見学会を開催。県内の市町村や建築関係者、総勢70名が参加。
- ・見学会では、北九州市立大学、CLT製造会社及び施工業者が、意匠・構造設計、製造及び施工について説明。
- ・参加者へのアンケートの結果、コスト面や建築審査への質問とともに、CLT工法への期待や、施工中の状態、構造設計のポイントを知ることができたとの高い評価。今後のCLTの活用が期待。



CLT壁パネルの構造、施工の現場見学



CLTの設計、製造及び施工について説明

4 飯塚農林事務所管内

■ 農業

- ・力強い水田農業確立事業をはじめとした県単事業を活用し、県外視察や専門家による経営指導を受け、3集落の営農組合が新たに農事組合法人を設立。この結果、管内の集落営農法人が30法人に増加。
- ・ほっけじ岡松ぶどう園（直方市）が、「売れる6次化商品推進事業」を活用し、無添加でぶどうを煮詰めた商品「ぶどう110（いちいちまる）」を開発。ふくおか「農と商工の自慢の逸品」展示商談会で商品の魅力をPR。
- ・宮若市の中山間地域で花き農家2戸が、切り花として有望なリンドウを新たに導入。鮮やかな花色で、市場で高い評価。今後、新たに1戸が導入予定。
- ・JAふくおか嘉穂（71戸）とJA直鞍（12戸）のブロッコリー部会で、生産性向上を目的に、作型変更や排水対策、定植遅れの解消、防除の徹底を実施。平成30年産の単収は、前年比5割増の575kg/10aに。
- ・田川地域では、小松菜の若手生産者の所得の確保に向け、加工用小松菜の栽培を推進。元年度から1戸の生産者が7.2aで栽培を開始。今後、栽培面積の拡大、新しい販路・販売形態の開拓に取り組む。

地域のトピック

○ 山口忠秋氏（福智町）が全国豆類経営改善共励会で農林水産大臣賞を受賞

- ・福智町の山口忠秋氏が、令和元年6月に「第47回全国豆類経営改善共励会」の表彰式で、農林水産大臣賞を受賞。
- ・大豆を作付けし、30年の単収は241kg/10aと、県平均を5割以上上回り、上位等級比率も8割以上と高品質。
- ・「JAたがわ麦大豆部会」の初代部会長として、田川地域の麦・大豆の収量、品質の向上に尽力。また、作業時間が短く、梅雨の合間に播種可能な「部分浅耕一工程播種」に取り組み、作業効率が向上。今回の受賞では、収量・品質に加え、「部分浅耕一工程播種」の導入により10a当たりの労働時間を2.2時間まで大幅に削減し、燃料消費量が40%減と生産コストも削減できたことが評価。



表彰式会場での山口夫妻

■ 林業

- ・宮若市の安田克徳氏が、第44回福岡県竹林品評会において農林水産大臣賞を受賞。タケノコ生産技術の高さと、加工・販売までの6次産業化の取組が評価。
- ・田川農業協同組合では、県産しいたけの認知度向上と販売促進のため、添田町「道の駅歓遊舎ひこさん」で、チラシの配布やしいたけのバターソテーの試食イベントを実施。試食・購入された方からは、「肉厚で風味が良い」と好評。
- ・筑豊地区女性林業グループでは、技術向上と所得向上を目指し、木の実や葉・花を使った「ハーバリウム」(植物標本)作成に挑戦。今後、商品化に向けた検討を開始。
- ・香春町では、「放置竹林対策事業」を活用し、竹林の貸し手と借り手のマッチングで荒廃竹林の再生を推進する「香春町竹林バンク制度」を創設。令和2年2月から運用を開始。
- ・稲築志耕館高校で、生徒が快適に学校生活を送れるよう、県有施設緑化事業を活用して木陰のない敷地に植栽を行い、「憩いの緑地空間」を創出。植栽木が生長し、木陰に生徒が集う癒しの場となることを期待。
- ・平成29年九州北部豪雨災害と平成30年7月豪雨災害により林地被害が発生した、嘉麻市、宮若市、添田町、川崎町において、緊急に復旧を要する全9か所の工事が完了。

地域のトピック

○ 森林経営管理制度の円滑な運用に向けて ～ 市町村支援の取組 ～

- ・令和元年度から新たに開始された「森林経営管理制度」の円滑な運用に向け、管内15市町村を対象に勉強会や個別打合せを実施。森林所有者への意向調査の具体的手法を提案した結果、飯塚市が初年度から意向調査に着手。
- ・筑豊地区森林・林業推進協議会の活動の一環として、積極的に管理制度の推進を行っている熊本県御船町及び甲佐町と情報交換会を開催。円滑な制度運用に向け、両町の先進的な取組を学ぶ。
- ・管内市町村の国土調査の進捗状況や、森林整備の担い手数に応じ、今後も、きめ細かな支援に取り組む。



林業事業者も加わり実施した打合せ



熊本県御船町・甲佐町との情報交換会の様子

5 筑後農林事務所管内

■ 農業

- ・ J A ふうおか八女は、高温耐性品種への誘導や適期収穫に加え、高品質で安定した米・麦の生産に向け、産地パワーアップ事業により、筑後カントリーエレベーター1号基を建設。
- ・ 第73回全国茶品評会玉露の部において、八女市星野村の山口豪吉ごうきち氏が農林水産大臣賞を受賞、八女市が19年連続で産地賞を受賞。
- ・ 三潞郡大木町の「ビストロくるるん」は、第49回日本農業賞「食の架け橋の部」で大賞を受賞。町が推進する「資源循環型まちづくり」に呼応し、「道の駅おおき」内のレストランで、町内農産物を無駄なく使い、食品残さはバイオマスプラントでエネルギーに。農業の価値を伝える理念を実践したことが評価。
- ・ 八女市の（農）八女美緑園製茶みりょくえんは、令和元年度全国優良経営体表彰の「販売革新部門」で農林水産大臣賞を受賞。直営店舗カフェでの直販や飲料メーカーへの販促、輸出への積極的な取組による販路開拓の実践が評価。
- ・ 県営中山間地域農村活性化総合整備事業 立花2期地区では、山下工区（みかん園造成）にて、令和元年度までに園内道路約6.0kmの舗装工事を実施し、全ての整備を完了。
- ・ 県営農村総合整備事業 柳川2期地区では、令和元年度に11路線、延長2.7kmの護岸工事を整備完了。2年度は10路線、延長3.4kmの護岸工事を実施予定。また、大川2期地区では、元年度に水路護岸2.1kmを整備完了。

地域のトピック

○ 県内初のCSF（豚熱）防疫演習を実施

- ・ 令和元年10月に、筑後広域公園で県が開催した演習には約170人が参加し、生きた豚を使用した誘導方法や、模擬豚による処分を実演。
- ・ また、動員者の受付、健康調査、防護服装着、発生農場からの退去といった一連の手順を確認、参加者の理解が深まる。
- ・ 万が一発生した場合にスムーズな防疫活動が実施できるように、参加者へ演習のアンケートを行い、マニュアルの改善に活用。



防護服を着る参加者の様子



生きた豚を誘導している様子



模擬豚を用いた演習の様子

■ 林業

- ・星野村林業研究グループは、第59回林業研究グループ九州地区交換研修大会（開催地大分県大分市）で優秀賞を受賞。国内外からのボランティアと共に行ってきた下刈り作業をはじめとする取組を発表し、高評価。
- ・たけのこ生産の拡大に向けた竹林管理のため、地元企業が、県事業を活用して竹破砕機を導入。複数の伐竹事業者を「竹林保全の会」として組織化し、放置竹林の伐採を開始。また、生産者7名も県事業を活用し、竹破砕機や運搬車を導入。管理竹林の10ha拡大を目指す。
- ・JAふくおか八女椎茸部会は、原木しいたけの販売促進を目的に「原木しいたけを使ったひな祭りレシピ」を考案し、福岡市博多区の商業施設で料理教室を開催。12名の参加者に対し、八女産しいたけの美味しさをアピール。
- ・筑後地区森林・林業推進協議会は、八女地域の森林・林業・木材産業の取組をPRするため、管内の林業事業者や苗木生産者、製材工場の活動、治山施設を掲載した令和2年度版カレンダーを作製。管内の市町や林業事業者を中心に150部を配布。

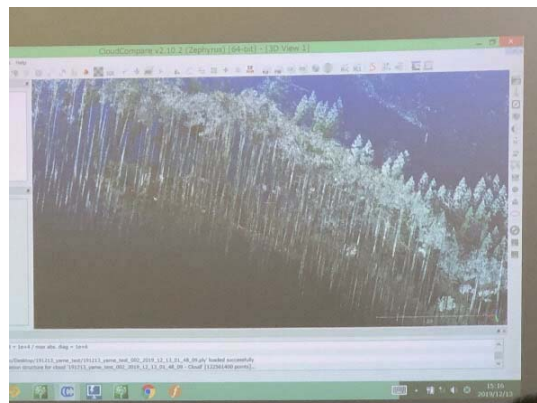
地域のトピック

○ ICTを活用したスマート林業が進む

- ・八女地域の森林組合、製材所、工務店を中心に、「八女地域材サプライチェーンマネジメント推進協議会」を結成。
- ・協議会では、工務店からの発注に応じて、生産情報を付与したQRコードを丸太に貼付けて出荷するトレーサビリティに取り組み、付加価値向上や在庫管理の効率化を目指す。
- ・協議会のメンバーである福岡県八女森林組合でも、森林調査を省力化するとともに、詳細な資源情報を把握し、木材生産の効率化を図るため、立木の位置や、直径、樹高、地形といった情報を3次元データ化するレーザー計測を試行。
- ・今後、川上から川下までの関係者が需給情報を共有し、レーザー計測で得られた森林資源データを活用しながら、八女産木材製品のサプライチェーン構築を目指す。



バックパック型3次元レーザーセンサー



3次元解析されたデジタル森林画像

6 行橋農林事務所管内

■ 農業

- ・豊前市では、県内一のベビーリーフの産地化を目指し、産地パワーアップ事業で低コスト耐候性ハウス約3haや集出荷貯蔵施設といった施設を整備。データに基づく生産管理方式の導入やグローバルGAP認証取得をはじめ、先進的な経営を基盤に販路拡大を目指す。
- ・京築地域では、夏秋なすの近年の単価上昇をメリットに掲げ、平成30年度から新規生産者の確保に向け、兼業農家や定年帰農者（予定者含む）、JA農業塾生を対象に、作付けを推進。現地視察や説明会を実施。元年度は7戸の新規生産者を確保。
- ・豊前市岩屋地区では、中山間地域の農業・農村振興対策として、岩屋地域振興協議会を主体に、グリーンツーリズムの進展に向け、専門家によるワークショップを開催。新たな作物の導入を含む地域の活動計画を策定。農家民宿や地域特産物といった地域資源の再評価と、生産者を中心に連携による「魅力ある農山村の創出」に向けた取組を実施。

地域のトピック

○ 日本一のキクイモ産地を目指して

- ・築上町農林業元気づくり協議会では、上城井地区を中心に、地域特産物であるキクイモの作付け拡大を推進。キクイモチップ、パウダー、キクイモ茶の6次化商品、販売促進のためチラシ、パンフレットを作成しPRを実施。
- ・平成30年10月に、生産者を確保するため設立された「きくいもクラブ」は、31年2月に出荷調製施設を整備。
- ・これらの取組により、生産者は25名となり、栽培面積は7haと日本一の産地にまで拡大。また、綺麗に洗浄された良質なキクイモ・加工品は、他の産地との明確な品質差を生み、キクイモが経営の柱となる品目にまで成長。
- ・令和元年に、県の事業でキクイモ加工品の成分分析を実施。今後は、キクイモを使った6次化商品を充実させ、農業所得の向上を目指す。



キクイモクラブ設立



洗浄機による
出荷調製作業



キクイモパンフレット

■ 林業

- ・第70回福岡県植樹祭が、令和元年6月15日にみやこ町犀川上伊良原の町メープルエリアにて開催。「1つぶの種が未来の緑へと」を大会テーマに、約300人が参加。京都森林組合の田中稔氏ら8つの団体・個人が、緑化功労者として県知事賞をはじめ各賞を受賞。
- ・福岡京築、大分北部地域が連携し、中津港を拠点にした木材輸出を進めるため、関係森林組合や輸出商社をはじめとする7団体の打合せ会議を開催。協議会の設立ならびに協定の締結に向けて協議を実施。
- ・上毛町の山本盛文氏が、瑞宝単光章を受章。永年にわたる県営林看守人としての功績や、地域林業の発展ならびに森林保全に対する貢献が高く評価。
- ・チェーンソーによる作業の安全と技術向上を目的に、令和元年で3回目となる「チェーンソー競技会」を築上町で開催。京都・豊築森林組合から9名が出場し、テレビの密着取材も受け、日ごろ鍛えた技術を広く情報発信。
- ・伊良原ダム上流地域のみやこ町犀川帆柱地区で、流域の水源かん養や土砂流出機能を高めることを目的に、奥地保安林保全緊急対策事業の新規計画を策定。令和2年度からの3か年で、治山施設と森林の整備を一体的に実施予定。
- ・「京築のヒノキと暮らすプロジェクト(ちくらす)」*における取組の一環として、福岡・大川家具工業会と共催で、令和2年1月から県庁「福岡よかもんひろば」にて「福岡県の家具と京築のヒノキを見て・体感する『大川京築 家具・木工展』」を開催。その取組の中で、JR九州の「ななつ星」や、平成筑豊鉄道の新駅「令和コスタ行橋駅」のデザインを手掛けた水戸岡鋭治氏らを招きトークイベントを開催。内容をホームページで公開。

※京築のヒノキと暮らすプロジェクト(ちくらす)：平成27年度から京築地区森林・林業推進協議会と京築・北九州の大学で連携し、京築ヒノキのブランド化と需要拡大を図るため、京築ヒノキの新たな活用方法を提案する活動。

地域のトピック

○ 平成筑豊鉄道で駅舎の木質化が進む

- ・「京築のヒノキと暮らすプロジェクト」では、平成筑豊鉄道「東犀川三四郎駅」駅舎の内外装を木質化。
- ・駅舎への京築ヒノキの利用は、令和元年8月に開業した新駅「令和コスタ行橋駅」に続き2例目。今後も駅舎木質化の取組を継続する予定。



みやこ町産スギを使用し焼杉加工された駅舎外観



お披露目式(令和元年12月23日)